

プールで育てたニシキゴイ引き上げ

津山商高生ら準備開始

11、12月 販売実習 今年初めて海外でも

津山商業高校(山北)の生徒らでつくる「有限責任事業組合 T S U S H O 鯉 Farm」が、同校のプールで育てたニシキゴイを11月に鏡野町と岡山市で販売するほか、12月には初の海外販売実習をシンガポールで行う。25日、コイをプールから引き上げ、販売に向けた準備を始めた。

コイの養殖は、3年生による地域ビジネス科の選択科目「ベンチャービジネス」の授業として平成17年度から始め、ニシキゴイを本場の新潟県から仕入れて交配させ産卵、ふ化した稚魚を育成。今年度は1、2組42人が、同校オリジナルブランド「つじょう紅白」のほか「大正三色(さんげ)」「昭和三色」の3種類約1万匹の稚魚を使われなくなったプールで5カ月間育てた。体長2〜3センチだった稚魚は約15センチに成長。約1500匹を引き上げ、選別して小さな手作りプールに浴びさせる。

シンガポールでの販売は、国内のコイの専門誌への掲載が縁で話が持ち上がり、現地の

販売業者が場所を提供してくれることに。東南アジアでは富裕層を



中心にコイがブームになっているという。約250匹(20〜30センチ)を11月8日に空路輸出する予定で、そのうち30匹を9月に東京に送りコイヘルペスとコイ

プールで育てたニシキゴイをすくい上げ、選別する生徒たち

脊ウイルスの検査を受け、合格した。現地でも検査を行い12月15、16日の本番に備える。生徒8人、教諭2人が出向いて販売する。

11月10、11日は全国産業教育フェア岡山大会(桃太郎アリーナ周辺)に県南初出店。鏡野町田舎寺の「夢広場」では17、18日(午前10時〜午後3時)、味覚祭に合わせ恒例の販売実習を行う。価格は1匹100円から3万円。65センチの2歳魚なども出す予定。3カ所で合わせて150万円の売り上げを目指すという。

専務の末田早奈英さんは「大事に育ててきたコイが、海外でも高い評価を受けることができたうれしい。準備をしっかりして全部売れるよう頑張りたい」と意気込んでいる。